

実践4 総合学科の特色を生かしたESDの取組

～生徒が夢を実現するために～

愛知県立豊田東高等学校 小瀧 逸子

1 はじめに

本校は創立88年の伝統校であるが、平成19年に新校舎移転とともに男女共学の総合学科としてスタートした。学科改編当初より、基本方針として「夢の実現」を掲げ、1年「さがす」、2年「ひろげる」、3年「はばたく」をキーワードに、本校が目指す生徒像である、①自分を取り巻く社会を客観的に捉え、広い視野をもって柔軟な考え方ができる生徒、②コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、人間関係調整能力を有する生徒、③いつでもどこでも誰にでも挨拶ができる明るい生徒の育成を目指している。コミュニケーション能力の低下や人間関係の希薄さが社会的な問題となっている中、「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」における、「聞く」「調べる」「まとめる」「発表する」という学習活動を通してコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、さらには人間関係調整能力等の育成を図っている。まさに「自ら学び、自ら考え、自ら行動する生きる力」をもった生徒を育てることを目指して、豊田東高校にしかできない総合学科の在り方を築き上げている。



学校（正門より）

また、これまで取り組んできた「環境教育」「国際理解教育」「地域連携教育」がユネスコスクールの理念に合致することから、平成24年4月にユネスコスクールに加盟が認められた。これを受けて、全職員体制でESDに取組み、今後目指すべき方向性と取り組むべき内容を明確にする必要性を感じている。

2 研究の目的

総合学科は、普通教育及び専門教育の選択履修を旨として総合的に施す学科であり、高等学校教育の個性化・多様化を推進するために平成6年度より設置された。文部科学省は総合学科における教育の特色を「将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視すること」とし就職・進学を双方を視野に入れた進路指導などのガイダンス機能の必要性を説いている。また「生徒の個性を生かした主体的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を得させながら学習に対する意欲の形成を図っていく」ことの重要性にも触れ、幅広い選択科目を開設し、生徒の個性を生かした主体的な選択や、実践的・体験的な学習を重視している。これを受け、1年次に原則履修科目である「産業社会と人間」を2単位、2年次に「総合的な学習の時間」を1単位、3年次に「総合的な学習の時間」を2単位実施し、3年後の成長を見据えたさまざまな取組は、キャリア教育にとって大変重要な役割を果たしている。さらに昨年ESDの研究に取り組む、「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」の学習内容や本校が目指す生徒像は、キャリア教育だけでなくESDの概念や理念にかなり近いことが分かった。しかし、これまでの取り組みは「つながり」を意識しない単発的なものも多く見られたことを反省し、ESDの視点に照らし合わせて見直し、再構築してみることにした。また「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」の取組だけでなく、総合学科の特色である「プラン別学習」や「総合発表会」「環境教育」「国際理解教育」「地域連携教育」の取組がどのような能力や態度に結び付いているのか、国立教育政策研究所が示した視点表を用いて検証することとした。

3 研究の方法

本校における3年間の学びの体系づくりである、「『夢の実現』に向けてのキャリアガイダンス」「3年間の学びの流れ」についてESDの視点に立って整理し、見直しを行う。また、本校における特徴的な活動である地域環境研究、地域連携教育、総合発表会についてもESDの視点に立って整理し、ESDの視点表を用いて学校全体の教育活動の中でのつながりを分析する。

4 研究の内容

(1) 本校における3年間の学びの体系づくり

ア 「夢の実現」に向けてのキャリアガイダンス

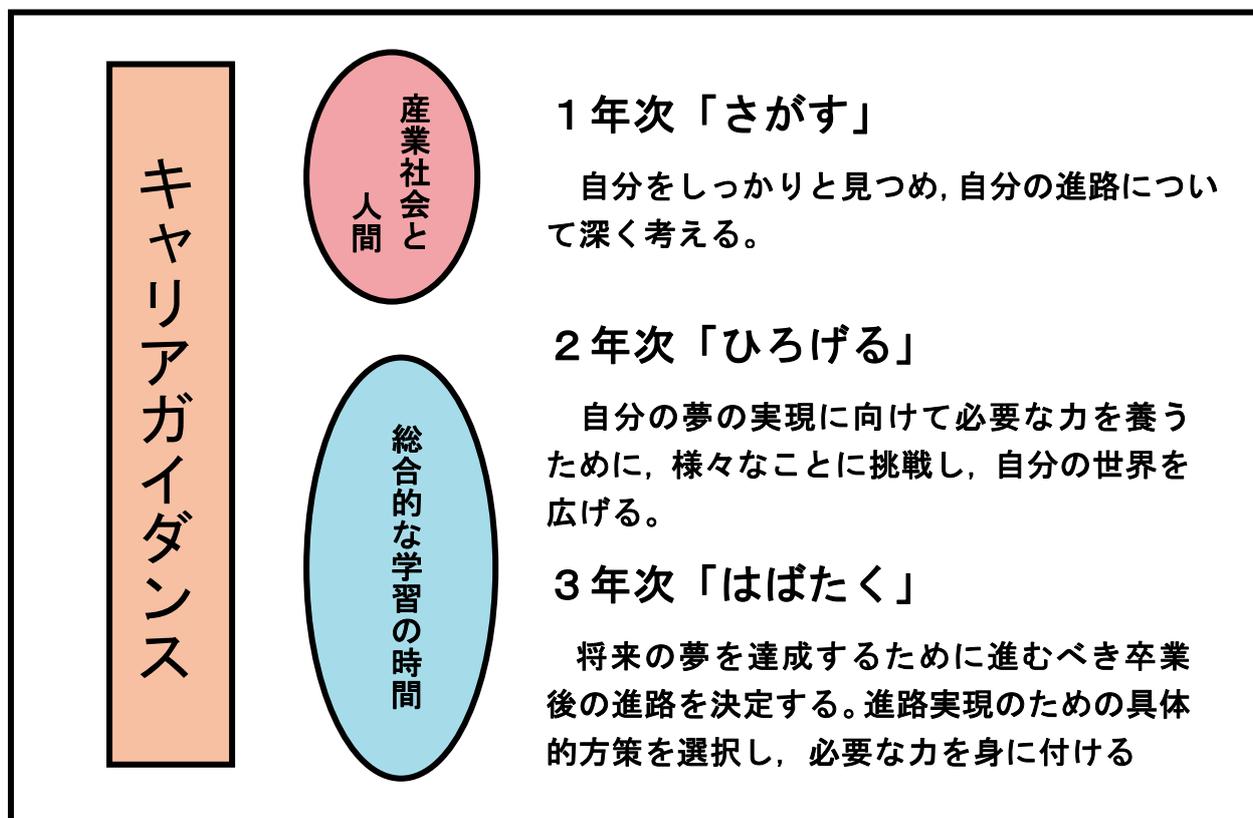
本校では教育目標を達成するために「夢の実現」という基本方針を掲げ、生徒の成長に合わせた3年間にわたるキャリアガイダンス、つまり「学習支援」や「進路支援」を行っている。これらは単年ではなく、3年間継続的に行われるもので、その学習活動としての位置づけが1年次の「産業社会と人間」、2・3年次の「総合的な学習の時間」である。(図1)

本校の教育目標

校訓「敬愛」の精神のもと人格の完成を目指し、自他の敬愛と協力により、生涯にわたる学習の基礎能力を養い、知・徳・体の調和のとれた心身ともに健全な人間を育成する。

- 1 学ぶことの厳しさ、楽しさを知り、自ら学ぶ習慣を培う。
- 2 自分を大切にし、心身を鍛え、強く正しく生き抜く力を培う。
- 3 礼節を重んじ、心豊かな生活を築く態度を育てる。

図1 「夢の実現」に向けてのキャリアガイダンス

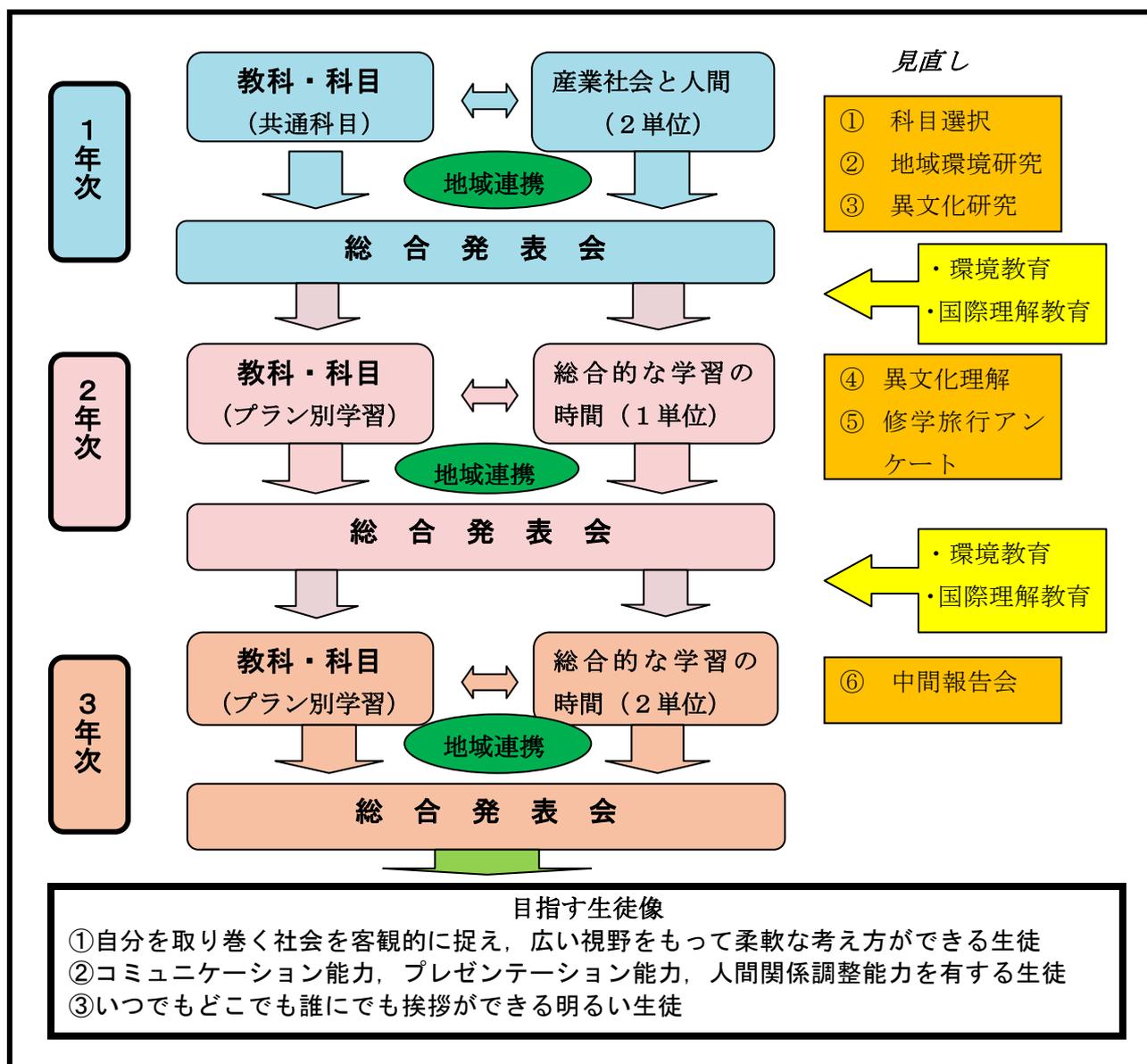


イ 3年間の学びの流れ

3年間の学びの流れは図2のようになっている。教科・科目については、1年次は必修科目を中心とした共通科目を学ぶ。2・3年次は自分の興味・関心、適性・能力、進路等を考慮して選択する学習「プラン別学習」を行う。「プラン別学習」のためのプラン選択は1年次に行われるが、これについては後述する。教科・科目で学習した内容は「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」と相互に作用し、その学習効果を高め合っている。特に教科・科目の知識や技能は学年を経るとともにより専門的になり「総合的な学習の時間」において実施している横断的・総合的な学習や探究的な学習の質も高まっていく。それだけでなく、「環境教育」や「地域連携教育」において実践の機会を設けることで、価値観を創造する学びへと発展し、学び合う関係づくりにも発展する。

毎年2月には、全校で「総合発表会」を行う。これは本校にとって学びの集大成とも言える大切な発表会である。1年生の「産業社会と人間」や2・3年生の「総合的な学習の時間」の学習内容の発表だけでなく、特色ある科目や活動等の発表も行われる。昨年は初めて、近隣の中学校、総合学科のある高等学校の教員、保護者の皆さんなどにも見ていただくことができた。詳しい内容やアンケート結果の考察については後述する。

図2 3年間の学びの流れ



(2) ESDの視点に立った見直し

国立教育政策研究所はESDの視点に立った学習指導を展開するために必要な枠組みとして、「持続可能な社会づくりの構成概念」と「ESDの視点に立った学習指導を進める上での留意事項」を示しているため、それを参考に「産業社会と人間」の年間計画の見直しを行った（表1）。

表1 1年生 「産業社会と人間」の年間計画

月	項目	内容
4	自分を知る	進路ガイダンス, 進路適性検査
5	働くことや学ぶことを知る	企業・キャンパス見学（準備、見学、発表）
6	履修計画	科目選択ガイダンス 
7		職業インタビュー
8		オープンキャンパス参加
9	社会を知る プレゼンテーション能力を身に付ける	社会を知る新聞作り 
10		クラス内発表
11	地域を知る・生き方を考える	地域環境研究, 職業・上級学校研究
12	生き方を考える	理想とする人物研究, 自分史づくり
1	異文化を理解する	異文化研究  ライフプラン作成・発表
2	まとめ	総合発表会
3		振り返り

ア 見直し① 科目選択ガイダンス

前述したように、本校では2年次より「プラン別学習」を行う。そのプランを考えるために5月中旬におけるPTA総会の学年懇談会においてまず保護者に説明会が行われ、その後5月下旬に今度は生徒対象の説明会が行われる。このときは教務主任の説明に加えて、各系列主任がプランや科目の説明を行う。一通りの説明の後には、担任との面談を繰り返し、保護者も加わった三者面談、複数の教員が参加して行う個別検討会を経て、予備調査、予備登録、本登録の流れでプランやプラン内の科目選択が決まっていく。本校では多様化する生徒の興味・関心を考慮して7つの系列、12のプランを準備している。

◆本校に設置する7つの系列

人文科学, 自然科学, 国際コミュニケーション, 生活科学, 福祉, 情報・ビジネス, 芸術文化

◆12のプラン

文プラン, 理プラン, 外国語プラン, 看護プラン, 調理・栄養プラン, 服飾プラン, 保育プラン
福祉プラン, ビジネスプラン, 情報処理プラン, 美術プラン, 音楽プラン

まず見直したのは、科目選択ガイダンス資料に主な進路先と卒業生からのメッセージを載せたことである。これは前年度の2月に行った「振り返り」によるもので、「プラン選択のアドバイス」と「進路実現に向けてのアドバイス」の2種類がある（p.76 資料1）。ガイダンス資料は中学校訪問の際にも配布しており、本校への入学を考えている中学3年生の参考資料にもなった。また現2・3年生の振り返りデータはプランごとにファイリングし、いつでも見ることができる。二つめの見直しは、プラン選択を考える際に時系列で考えさせたことである（p.77 資料2）。これまでの自分の考えを、時間を追って考えさせたことで、生徒の中には改めて自分の夢を見直したり、逆に自分が何を学びたい

かを明確にしたりすることができた生徒もいた。そして三つめは、ほぼプランや科目選択が決定した10月にアンケートを実施したことである（p.78 資料3）。科目選択は生徒にとって3年間の学びの成否を決める大切なプログラムであるので、どの場面が決定に際して有効であったか、また誰の影響を受けているかなど知り、次年度以降の科目選択に役立てたいと考えている。さらに教員が生徒一人一人のプラン選択納得度を知り、実際にプラン別学習がスタートする2年生以降、納得度がどのように変化していくかを追跡調査し、納得度の変化を担当、教科担当者、各系列主任等と共有することで、入学から卒業まで生徒をサポートすることをねらいとしている。服部（2012）は「総合学科の在り方に関する調査研究」の報告書の中で、「手間暇かけて指導するのが総合学科であり、科目選択の指導は総合学科教諭の最も重要な仕事である。総合学科教諭はキャリア・カウンセラー的意識を高める必要がある」3) と述べている。

p.78 資料3のアンケートを実施した結果、科目選択納得度の平均値は89.4であった。特に高い納得度を示したのは保育プラン選択者の96.0、次いで音楽プラン選択者の95.8で、いずれのプランも専門性が高いことから、それぞれのプランの科目に対する学習意欲が高いことがうかがえる。また科目選択において生徒が参考にしているのは「家族のアドバイス」、「科目選択ガイダンス」、「教員からのアドバイス」の順であった。科目選択のプロセスを重要視し、科目選択の満足度を高めることは、自己の在り方生き方をより深く考える態度を育てることにつながり、さらに主体的な進路選択につながっていくのではないかと述べている。

イ 見直し② 地域環境研究

これまでの地域環境研究は、地元のまちづくりに関わる方を外部講師に招いて講演会を行い、その後学校周辺の清掃ボランティアをするというものであった。そこで平成23年度は、あらかじめ生徒に「まちづくり提案」をする時間を確保し、そのデータを講演者に見てもらい講演会の際に生徒の提案についての意見を述べてもらう「つながり」を導入した。そして生徒が考えた豊田市のキャッチコピーを商工会議所主催のイベントで発表する機会をもらい、地域のこれまでの歴史を知るとともに、地域のこれからを考える機会とした。

今年度本校は、国土交通省、豊田市矢作川研究所、NPO法人矢作川森林塾などと連携して、学校近くの矢作川に整備されつつある「子どもと川の出会いの場（仮称）」で動植物や自然環境の変化を観察・記録し、子どもたちを対象としたイベントの企画・運営を行う計画を立て、写真科学部の科学班によって、植物等の継続的な観察を始めた。ESD-JではESDの視点を取り入れる工夫の中で「人と人のつながり」、「人と自然のつながり」、「人と社会のつながり」を重視しており、地域の資源、人、課題を題材に学びを創造する必要性を説いている。そこで矢作川という地域資源で流域の健全な生態系の保護と豊かな自然環境を後生に残すこと、「子どもと川の出会いの場」となる矢作川で触れ合いを大切にすることを、国土交通省、豊田市矢作川研究所、NPO法人矢作川森林塾などと協働して作り上げたいと考え、1年生の「産業社会と人間」の地域環境教育で取り上げることにし、次のような計画を立てた。

	内 容
地域環境研究①	講演会『「子どもと川の出会いの場」のこれまでとこれから』p.65 写真 ゲストティーチャー：NPO法人矢作川森林塾，国土交通省
地域環境研究②	プランニング（個人）
地域環境研究③	プランニング（グループ）

地域環境研究④⑤	矢作川にて現地踏査 プランニングの見直し
----------	-------------------------

地域環境研究2・3時間目には講演会での内容を基に、このプロジェクトの名称を考え、「子どもと川の出会いの場（仮称）」を今後どのように活用するか、プランニングする予定である。そして4・5時間目を使って1年生240名が矢作川に行き、矢作川森林塾の塾長と国土交通省の方の指導のもと、清掃や川の観察、竹の伐採を行う計画である。現地踏査後生徒はプランを見直し提出する。提出したプランはゲストティーチャーが審査し、優秀なプランは3月に行われる矢作川ミニシンポジウムにて発表の機会が与えられることになっている。今年9月に行われた矢作川天然鮎感謝祭には多くの市民が参加し、その中には小さな子どもを連れた家族連れやお年寄りまで幅広い層の人々が参加していた。今回の地域環境研究がきっかけとなって、本校生徒が5年後、10年後に同じように参加する姿を期待している。



講演会「子どもと川の出会いの場」のこれまでとこれから

ウ 見直し③④ 異文化研究

これまでの異文化研究は、ゲストティーチャーが諸外国の事情などについて講演をし、2年生に修学旅行先の様子を伝えるという単発の内容であった。そこで、生徒が外国や異文化に興味・関心をもつことを考え、ゲストティーチャーは修学旅行先のマレーシアの人であること、ただ単にマレーシアの人というだけでなくマレーシアの文化と日本の文化の両方を体験している人という条件で探したところ、マレーシア国籍で日本在住で、専門学校でマレー語を教えている人が見つかった。ゲストティーチャーには1回だけでなく継続的に交流することを前もって依頼した。既にマレーシアについてグループ別に学習し始めていた生徒に「私が育ったマレーシア」という題で講演していただいた。生徒はゲストティーチャーがなぜ日本で生活することになったのか、また日本の生活で困ることはないかなど質問をしていた。そしてこのゲストティーチャーとの関わりは、2年生の総合的な学習の時間に行われる講演会、さらにマレーシアの料理を知る講習会へと発展させた。実際に修学旅行でマレーシアに行き、自分が見てきたマレーシアの報告と疑問に感じたことを講演会でゲストティーチャーに伝え、学び合うというものである。今年度は、修学旅行から帰ってきた翌週にゲストティーチャーを招き、次のような質問を投げかけた。

- ・マレーシアにはさまざまな民族の人が暮らしていますが、宗教や民族の違いで困ることはありませんか。対立は起きませんか。信仰する宗教をもたない人もいますか。
- ・マレーシアでホームレスの人たちをたくさん見ました。貧富の差は激しいですか。日本でも貧富の差はありますが、マレーシアの貧富の差はどこから来るのでしょうか。
- ・マレーシアでは自転車を見かけませんでした。自転車には乗らないのですか。乗ってはいけない理由がありますか。それと、車やバイクがすごいスピードで走っていましたが、交通事故は起きないのですか。
- ・マレーシアの環境問題をどう思いますか。
- ・マレーシアの人が使う言葉は、基本は英語ですか。マレー語を話すときはありますか。英語は学校で習うのですか。
- ・マレーシアでは男女差別はありますか。

これらの質問に対するゲストティーチャーの答えの中で印象的だったのは、「多宗教ではあるが、自分以外の人の宗教については何も言わないし関わらない。それがマナーです」という答えであるが、多様性の概念を肌で感じる事ができた瞬間だと感じた。料理交流では調理・栄養プランの生徒とゲストティーチャーが、お互いの国の料理を教え合う。昨年、ゲストティーチャーはマレーシアのチキンカレーを、そして本校生徒は飾り寿司を作り、国籍を超えた学びあいの場となった。今年度はゲストティーチャーからそばカレーを教わり、本校生徒はきつねうどんを作る予定である。



マレーシアについての講演会

表2 2年生「総合的な学習の時間」の年間計画

月	項目	内容
4	異文化理解研究	マレーシアを調べよう
5		(ガイドブック作成)
6		日本を紹介しよう
7		(ピクチャーブック作成)
8	見直し⑤	外国人の人とのコミュニケーションの方法を考えよう
9		(チェラス校との交流, 自己紹介カードの作成, B&S
10		プログラムの作成) ゲストティーチャーによる講演会
		修学旅行アンケート
11	生き方を考える	職業・上級学校研究, 料理交流
12	課題研究	研究したことを文章にまとめてみよう
1		
2	まとめ	総合発表会
3		振り返り

エ 見直し⑤ 修学旅行

2年生の「総合的な学習の時間」は10月の修学旅行に関する内容が多くなりがちであるが、修学旅行に行ったからといって、それが異文化理解になるということではないという考えの上に立って実施した。異文化理解研究では旅行先の生活や文化などを調査・探究し、異文化に対する理解を深める学習を行った。さらに修学旅行の目的を「①実際に海外に赴き、現地の人々との交流を通して異文化体験、異文化理解を進める。さらに異文化理解を通して日本文化を認識し、自分自身の理解を深める。②他国の文化を理解するとともに日本文化を深く理解し、その知識を広く外国に向け発信できる態度を養うと同時に外国文化を受容し理解できる力を養う。③現地の人々との交流を通して友好を深め、国際平和を願う心を育む。」としていることから、現地における交流計画や、交流の際に手渡しする「自己紹介カード」や「ピクチャーブック」の作成に重きを置いた(表2)。

また昨年度から修学旅行後のアンケートを見直し、自由記述として次の内容を追加した。

- ・修学旅行に行く前後での、自分自身のマレーシアに関するイメージを答えなさい。
- ・修学旅行でマレーシアに行く意味を、日本とマレーシアとの関係を考えて答えなさい。
- ・B & S プログラムで、現地の大学生と話した内容はどんなことでしたか。
- ・この修学旅行を通して、他国の相手を理解する上で、最も重要だと思うことを下記から選びなさい。また、選んだ理由も書きなさい。
 - ①国の言語を身に付けること ②他国の宗教を知ること ③他国の歴史を知ること
 - ④他国の習慣を知ること ⑤自国の理解を深めること

修学旅行の重点目標である、現地における交流に対して具体的にどのような話をしたのか、また相手を理解するために自分たちに必要とされることは何だったのかなど質問した結果、以下のような生徒の声を聞くことができた。また、他国の相手を理解する上で最も重要なことは「他国の言語を身に付ける」であった。まずは相手と話すことができなければ、こちらの気持ちも伝えられないし、相手のことも分かってあげることができないという理由が多かった。数は少なかったが「他国の習慣を知ること」が最も大切だと回答した生徒の中には、私たち日本人には当たり前のことでもマレーシアの人には受け入れられないこともあり、習慣を知らずにその国を訪問することは失礼であると理由を述べていた。生徒の感想から、海外修学旅行という貴重な異文化体験は、多様性や相互性の概念を理解させ、人や社会、国の関わりなど多面的・総合的に考える良い機会となった。

【アンケート自由記述回答の一例】

- ・他国の相手を理解するにはまず自国を理解することが必要だと思う。日本とマレーシアの違い（特に宗教や習慣）を理解し、認識することが大事だと思う。
- ・日本とマレーシアでは言葉も違うし宗教も違うけれど、相手が何を言いたいのか考えたり、自分の言いたいことをどうすればうまく伝えられるか考えたりすることができた。うまく言葉が話せなくても心は通じ合うことができることを学んだ。
- ・マレーシアにはマレーシアの宗教や習慣があるから、自分の意見だけを押しつせず、理解しようとする心がけが必要だと思った。
- ・同じアジア圏としてお互いに違う部分を探したり、共通点を見つけたり学ぶべきことが多くあった。実際に見て、体験することで詳しくより確かなものを見つけることが今回の修学旅行の目的だと思った。
- ・言葉が通じないことを経験し、言葉を伝えることの大切さと通じたときのうれしさを感じた。

表3 3年生「総合的な学習の時間」の年間計画

月	項目	内容
4	生き方を考える	将来像を実現するための職業・上級学校研究
5	課題研究	社会で起こる諸問題に目を向け、多角的に物事を見てみよう(ディベート)
6	テーマ研究 ↑ ↓	自分の進路から課題を見つけ、課題について研究を行う 中間報告会 
7		
8		
9		
10		
11		

12		研究の成果をまとめる
1		4分間のプレゼンテーションをする
2	まとめ	総合発表会 振り返り

オ 見直し⑥ 中間報告会

これまでの中間報告会では、総合的な学習の時間の活動内容を報告し合っていたが、昨年度から、進学希望者を中心に行っている課題研究において、熱心な取組をしている生徒や、自分の将来像について熟慮できている生徒を中心に発表させたり、既に就職先から内定をもらっている生徒が全員の前で本番さながらの模擬面接を行ったりしている。これは本校が重点に置いている「プレゼンテーション能力」や「コミュニケーション能力」を育てることに大いに役立っている。また自分以外の人の話を聞くことを通して、意見や情報をよく検討・理解したり、自分の意見に他者の意見を取り入れたりする力となっている。さらに、発表者にとっては自分の意見をまとめて簡潔に伝える力も育てている（表3）。

(3) 本校における地域環境教育

本校では平成20～22年度、サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）事業を活用し、外部研究機関と連携した自然科学教育を実践しており、本校の横を流れる矢作川で外来生物であるカワヒバリガイの調査を経年観察で行ってきた。今年度は「持続可能な社会を考える ～矢作川流域の人工林の健康診断～」というテーマで里山の森林生態系について取り組んでいる。これは豊田市矢作川研究所、NPO法人矢作川水系森林ボランティア協議会、名古屋大学大学院環境学研究科、東京大学大学院農学生命科学研究科などと連携して、講演、野外調査、見学などにより、さまざまな人工林の様子を知り、自然と人間の共生の仕方を考えるもので、地域連携の構築を目指した環境教育である。

ア これまでに実施した内容

(ア) 講演会「森の健康診断 ～市民と協働研究者による愉快的な森林調査～」

総合学科2年生全員を対象に、豊田市矢作川研究所の主任研究員をゲストティーチャーに招き、豊田地域のスギ・ヒノキ人工林の現状と自然環境を学習する講演会を実施して、日本の林業が持続不可能な現状に陥っている現状について考察を深めた。野外活動に参加する生徒は、時間的・物理的な制約上、一部に限定せざるを得ないが、学年全体を対象とした講演会を実施することにより、知識と意識の共有化を図ることを目指した。



(イ) 森の健康診断①【豊田市桑田和町】

間伐遅れの人工林は一見すると緑豊かであるが、中に入るとうっそうとして光が差し込まないため、地面にはほとんど植物がなく、土がむき出しになっている。いわゆる「緑のダム」機能が崩壊し、土砂崩れの危険性のある人工林について、



講演会の様子

植生調査、土壌調査、植栽木の樹高や密度などを理プラン選択の生徒17名で調査した。また調査地の人工林を提供していただいた山の所有者にも同行していただき、生徒たちとの「対話」を行った。

(ウ) 森の健康診断②【豊田市梨野町】

豊田市足助地域で個人として持続可能な林業を営む山の所有者と連携し、理プラン選択の生徒から選抜した6名の生徒により、森の健康診断を追加実施した。さらに、東京大学大学院生態水分学研究所の協力のもと、土壌の透過性を測る調査等を併せて実施することにより、健全な人工林の指標を比

較検討した。

(エ) 講義・野外見学

理プラン選択の17名を対象に、瀬戸市にある東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所において、豊田市猿投山の変遷、森の平壤化作用および森林の公益的機能について講義を受けた。また、研究施設や演習林を実際に観察したり、野外実習後の講師との「対話」をしたりして、森林の在り方、日本における林業の持続可能性について理解を深めることができた。

イ 今後実施する予定の内容とねらい

(ア) 講義・討論

森の健康診断②に参加したグループを対象に、豊田市里山暮らし体験館「すげの里」において、同施設の設計に携わり現地調査を行っている名古屋大学の講師の解説の下で、その研究室の大学院生たちと対話を行う。自然エネルギー100%で運営する施設の仕組みを学習し、小水力らせん水車発電やバイオガス施設の運用状況を確認することで、持続可能な社会について理解を深める。

(イ) 事後学習

野外調査の結果をまとめるとともに、諸活動で交流した講師やNPOの方々、山の所有者たちの言葉を「聞き書き」として文書化する。また、発表準備を行う際には前年度先行調査を行った生徒を同席させ、対話を行うことを企画している。一連の活動において重視したのは「対話」である。新学習指導要領では言語活動の充実がうたわれているが、対話型の授業展開はその方策として注目されている。

(4) 本校における地域連携教育

本校では地域社会に主体的に関わり、地域社会を創っていく担い手の育成を目指して地域連携活動に取り組んでいる。きっかけとなったのは、平成21年度ビジネス研究部の活動において、地域の抱える課題に取り組み、地域経済の活性化を研究するために市街地活性化事業に参画したことである。その後は学校という組織が主体となって地域連携に関わることの必要性から、総合推進部が中心となって取り組むことになった。平成24年度は前年度に引き続き、中心市街地活性化事業と協働し、商店街活性化事業に参画した。協働する桜町本通商店街は学校から近くまちづくりに熱心に取り組んでいる。具体的な活動内容は、「ふれ愛フェスタ2012」への参加、商店街アーケードのバナー（宣伝用の旗）の製作、八日市のお手伝いなどである。八日市のお手伝いではボランティアチーム「チーム八日市」を結成し学校が休みの土・日曜日と八日市が重なったときには参加している。また、昨年美術プランの生徒が、商店街の宣伝用の旗（バナー）を19店舗分作成したが、その旗を見た警察署の方から、交通安全啓発運動用ののぼりの作成を依頼され、今年度作成した。さらに、



高校生グルメ甲子園

に参加した。F級のFは「ふるさと」、「未来（future）」を表しており、高校生が地元の食材を使



交通安全用のぼり

一昨年、昨年と実施した地元の特産品を利用した商品開発にも取り組んで

おり、今年度は昨年に引き続き「米粉」を使った商品開発に2・3年生調理・栄養プランの生徒が関わっている。活動は校内にとどまらず、校外においても積極的に参加しており、11月には静岡県三日市で開催された「第2回高校生F級グルメ甲子園」

って商品開発することを応援するコンテストである。このコンセプトは本校が取り組む地域連携のコンセプトに通じるものがあり、昨年に引き続き応募したところ、予選を通過し調理・販売できることになった。

このような地域連携では、高校生が地域社会活動に主体的・継続的に関わり、企画・運営・評価の一連の活動をすることによって、自己の将来を考えるとともに、地域を見直し、地域社会を自分たちで担っていくという公共の精神を高め、コミュニケーション能力や調整力など社会参画のスキルを身に付けることを目指している。今年度の実施内容は表4のとおりである。12月8日の桜町本通商店街の八日市では、本校吹奏楽部が青空コンサートを行った。また商店街のアーケード用の旗はビジネスプランの生徒がスタンダードと歳末セール用の2種類の図案を作成した。更に商工会議所との連携で行っている地元の特産品を利用した商品開発は、12月に行われる商工会議所主催のイベントにおいても出店した。

表4 今年度実施した地域連携活動

	概 要	本校の参加生徒	備 考
H24 4. 8	チーム八日市 青空コンサート（箏曲部）	希望者（13名） 箏曲部	桜町本通り商店街の八日市のお手伝い 青空コンサート
5. 27	桜町本通商店街 ふれ愛フェスタ 2012 *子どものためのイベント	3年保育プラン(13名) 写真科学部・科学班（5名） 美術部(5名) 家庭部（26名） JRC部(24名) 調理・栄養プラン（9名） 服飾プラン（6名）	保育プラン：紙芝居、ゲーム 科学班：おもしろ科学 美術部：手作りジグソーパズル 家庭部：模擬店（焼きそば等） JRC部：ゲーム 調理・栄養プラン：模擬店 服飾プラン：フリーマーケット
7～9月	交通安全のぼり製作	美術プラン・美術部	交通安全立哨活動用ののぼり
7. 8	チーム八日市 青空コンサート（合唱部）	希望者（15名） 合唱部	桜町本通り商店街の八日市のお手伝い 青空コンサート
8. 8	チーム八日市	希望者（8名）	桜町本通り商店街の八日市のお手伝い
9. 8	チーム八日市	希望者（9名）	桜町本通り商店街の八日市のお手伝い
10. 8	チーム八日市 調理・栄養プランの模擬店	希望者（19名）	桜町本通り商店街の八日市のお手伝い 模擬店



チーム八日市



青空コンサート



青空コンサート



ふれ愛フェスタ
(家庭部模擬店)



ふれ愛フェスタ
(JRC部ゲームコーナー)



ふれ愛フェスタ
(美術部ジグソーパズル)

【ふれ愛フェスタに参加した生徒の感想】
 私は保育プランで、今回は「あたってクルクル」というゲームをやりました。参加してくれた子どもたちが喜んでくれてうれしかったです。

【八日市に参加した生徒の感想】
 これまで、参加したいと思っていましたが部活動と重なってできませんでした。やっと参加できました。朝市に来るお客さんに、五平餅を渡すお手伝いをしました。

こうした地域におけるさまざまな活動は、生徒が地域に行きその住む人たちと出会い、挨拶や言葉を交わし地域の存在を自分の目で見つめる、つまり現実に出会う場となっている。

(5) 本校における総合発表会の役割

ア 内容

「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」での学習内容の発表、「プラン別学習」の成果の発表また特色ある活動等の発表の場として行われている。平成23年度の発表一覧は以下の通りである。



総合発表会



総合発表会

- 1年「産業社会と人間」・・・ライフプラン
- 2年「異文化理解について」
- 3年「総合的な学習の時間」・・・課題研究，模擬面接
姉妹校訪問団報告
野外調査活動報告（理プラン）
知の探求講座報告 地域連携実践報告
特色ある授業
- 外国語プラン「異文化理解」
- 保育プラン「巨大ペーパーサート」
- 調理・栄養プラン「フルコース実習，お弁当実習」
- 服飾プラン「ファッションショー」

イ 効果

総合発表会は、各学年・各教科の代表発表者が自らの体験や学習内容をまとめて伝えることはもちろん、他者の体験や考え方にも耳を傾けて、学びの共有を図ることができる貴重な機会である。特に3年生が下級生に対して、自らの学びを発表することで下級生は学びの目標を知り、プレゼンテーション能力に違いがあることに気付き、自らも成長しなければいけないことを再認識する。そして先輩たちの学びを引き継ぎ、さらに発展させようとする意欲にも結び付いていく。平成24年2月15日に行なわれた総合発表会は、はじめて外部の方に公開した。全学年がそろそろ3回目の発表会となったが、3年生が総合司会を務める中で大変中味の濃いすばらしい発表であった。本校において総合発表会は生徒が学んできた知識や体験の共有であると同時に意識の共有にも役立っていることが分かった。

ウ 感想・アンケート結果および分析

先に述べたように、昨年は初めて近隣の中学校、総合学科のある高等学校の教員、保護者の皆さんなどにも見ていただくことができた。外部の方の評価は気になるところであるが、おおむね良い評価をいただくことができた。本校生徒の感想、本校職員の感想、外部の方のアンケート結果を項目別にまとめてみた（各項目の回答数に対する割合を「割合」の欄に百分率で示してある）。

対 象		項 目	割合
生徒 (回答数 521)	1	発表自体の評価	16%
	2	自身の目標、活力、刺激、期待感	50%
	3	東高への活動の興味、発見、誇り	23%
	4	自己啓発、自己発見、自己肯定感	11%
職員 (回答数 23)	5	発表自体に関する評価	13%
	6	発表の計画、準備、設営、運営に関する評価	32%
	7	生徒の発表状況、活動状況、活動内容に関する評価	21%
	8	学校・職員の指導体制に関する評価	9%
	9	東高校、総合学科の在り方に関する評価	13%
	10	開催時期に関する意見	5%
	11	当日日程、プログラムに関する意見	7%
参加者 (回答数 32)	12	生徒の活動、能力、成長に関する評価	6%
	13	東高校の総合学科に関する評価（教育課程、専門性、特性）	58%
	14	発表内容に関する評価	23%
	15	発表会の運営に関する評価	13%

生徒の主な感想・意見を項目別に示す。

○生徒の感想

1 発表自体の評価

- ・保育プランの発表は子どもの心をつかむ工夫がされていて、見ていて楽しかった。声の出し方も上手ですごいと思った。（1年）
- ・今年の発表会は3年間で一番観て聴いて楽しめる発表会だった。（3年）

2 自身の目標、活力、刺激、期待感

- ・発表を見て、エネルギーをもらった。来年度への意欲がわいた。（1年）
- ・3年生の先輩の模擬面接や課題研究の発表では、学ぶことが多く来年度に生かしていきたい。（2年）

3 東高の活動の興味, 発見, 誇り

- ・発表を見て, 東高校に来て良かったと感じた。東高校にいることを誇りに思えた。(1年)
- ・発表者として舞台上上がったとき, 鑑賞者の態度の良さに驚いた。(2年)

4 自己啓発, 自己発見, 自己肯定感

- ・発表会で強く感じたのは, みんなそれぞれ夢があってそれをかなえるために東高でがんばってきたことである。東高には恵まれた学ぶ環境があって, みんなの夢の幅も広がると思った。(3年)
- ・発表することが多かったこの1年で, 人前で話すことを少しだけ楽しめるようになった。(1年)

上記の結果から, 生徒は発表そのものの評価よりも発表を通して活力や刺激を感じ取っていることが分かる。また同級生や上級生の発表を見て, このような発表ができる生徒と学んでいることに誇りをもつ生徒が多く見られる。さらに発表した生徒には自己肯定感も見られた。外部の参加者は46人のうち32人から回答が得られた。東高の総合学科に関する教育課程や専門性, 特性に対する評価が58%と高い数値を示しており, 今回の発表会が総合学科としての集大成と理解されたからではないだろうか。アンケートの中には「これから総合学科がどの方向に進んで行くのか興味深い」「今後豊田東がどう進化するかぜひ見てみたい」など高い関心を寄せている意見も見られ身の引き締まる思いである。一方, 職員は発表内容よりも運営側の問題点や課題に評価が多く見られることはうなずける。平成24度は, 平成25年2月14日に, 各学年の発表に加えて, 4つの特色ある活動, 7つの特色ある科目やプランが発表を行った。

(6) ESDの視点表を用いた分析

「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究」(国立教育政策研究所)の最終報告書においてESDの視点に立った学習指導の目標を設定している。そこで示されている「持続可能な社会づくりのための構成概念(何を学ぶか)」と「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度(どういう力をつけたいか)」によるESDの視点表を用いて, 本校のESDさまざまな取組を分析した。これまでの取り組みには○を, 今回見直したのものには◎を記した(表5)。

表5 ESDの視点表

学年	学 習 活 動	構成概念						重視する能力・態度						
		I	II	III	IV	V	VI	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1 年	産業社会と人間(見直し①)	○	◎	○		◎	○	◎	◎	◎	○	◎	○	○
	国際理解教育(見直し③)	◎				◎		◎		◎	○			
	環境教育(見直し②)	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	○	◎		◎	○
	地域連携					○					○			○
	総合発表会	○	○					○	○	○			○	
2 年	総合的な学習の時間(国際理解教育(見直し④⑤))	◎	◎		○			○	○	◎	◎	◎	◎	○
	環境教育	○		○				○		○				
	地域連携					○					○			○
	総合発表会	○	○					○	○	○			○	

3 年	総合的な学習の時間（見直し⑥）	○			◎			◎		○	◎		○
	地域連携					○					○		○
	総合発表会	○	○					○	○	○	○	○	○
	○◎の合計	9	5	3	2	6	2	9	6	9	9	3	7

【構成概念】

【重視する能力・態度】

- I 多様性 II 相互性 ① 批判的に考える力 ② 未来像を予測して計画を立てる力
 III 有限性 IV 公平性 ③ 多面的・総合的に考える力 ④ コミュニケーションを行う力
 V 連携性 VI 責任性 ⑤ 他者と協力する態度 ⑥ つながりを尊重する態度
 ⑦ 進んで参加する態度

E S Dの視点表を用いた分析から、「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」だけでなく地域連携、環境教育、国際理解教育、総合発表会等の積み重ねによって、多様性や連携性などの構成概念を捉えるとともに、批判的に考える力や多面的・総合的に考える力、コミュニケーションを行う力など、本校が目指す生徒像に近づく能力や態度が積み重ねられていることが分かった。文部科学省の「高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」では「総合的な学習の時間」の目標を「自己の在り方、在り方生き方を考えることができるようにする。」としている。さらに充実の方向性を「①探求的な学習②協同的な学習③体験活動の重視④言語活動の充実」としていることから、本校の取組は望ましい方向にあると言える。

5 研究のまとめと今後の課題

総合学科に学科改編されて6年が経過し、その都度見直されてきた「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」であるが、今回E S Dの視点で見直すことにより、より総合学科としての特色を生かす活動になったと思われる。見直した内容をE S Dの視点表で評価したところ、「構成概念」においても「重視する能力・態度」においても本校が目指す方向に沿っていることが分かった。これまでキャリア教育を中心に取り組んできた「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」は、新学習指導要領の柱である「生きる力」につながっており、E S Dの理念にも通じる。今回の研究を通して、一つ一つの学習活動がE S Dにつながっていることを確信することができた。これまで生徒が記したレポートや講演会後の感想などから、3年間にわたる学習の中で生徒たちは、ものの見方や考え方、積極性、コミュニケーション能力などの力を身に付けていることは明らかである。今年度は残念ながら実施できなかった在校生や卒業生の「総合学科に関するアンケート」を、来年度こそ実施し、さらに生徒が夢の実現に近づける学習活動を展開したいと考えている。

平成21年度から積極的に取り組んでいる地域連携は、今後も地元の商店街である桜町本通商店街と商工会議所、さらに平成24年度からN P O法人矢作川森林塾と積極的に関わり地域資源を題材にした学習活動を展開していきたいと考えている。参加体験型の手法や人や地域の可能性を最大限に活用した手法を生かして、地域をベースに地域資源を使った教材となる「まちづくり」や「子どもと川の出会いの場づくり」を通して、学校と地域がつながる取組は「教材のつながり」「人のつながり」「能力・態度のつながり」へと発展している。

学校全体としてみたとき、E S Dの視点に立った教科指導はまだこれからであるが、現在国際コミュニケーション系列の科目「異文化理解」では英語で世界遺産について読み、内容を理解するだけでなく、そこから浮かび上がる問題に目を向けた授業や、行事や残したい伝統・町の宝物を題材にグル

ープ研究やフィールドワークにも取り組んでいる。また生活科学系列の科目「ファッションデザイン」では「衣服の循環の今と昔を知る」をテーマに昔と今の衣服の循環について学んだり、地域のお年寄りから洗い張りの様子や衣服を大切に扱ってきたお話を聞いたりし、今の自分たちにできることとして、現在リメイク作品の制作に取り組んでいる。今後E S Dの視点に立った学習指導が多くの教科で進められることを期待している。

昨年一年間E S Dの研究をしていて気付いたことは、E S Dについて語り合える仲間が学校にいないことであったが、今年度はE S Dについて語れる仲間が少しではあるが増えたことに喜びを感じている。また、様々な企画をする際に、これまでやってきたこと、現在やっていること、そしてこれからやろうとしていることに「つながり」が必要であると伝えてきたことが、今、先生方の中に少しずつではあるが受け入れられてきていることも実感している。今後、さらに学校全体にE S Dが広まるように努めたい。

参考文献・資料

- 1) 「E S D教材活用ガイド」 財団法人ユネスコ・アジア文化センター編 2009 3.19
- 2) 「次世代の市民を育む学びのために」 持続可能な開発のための教育の10年推進会議(E S D - J) 編
- 3) 「総合学科の在り方に関する調査研究」 報告書 2012 3.30 研究代表者東京女子体育大学特任教授 服部次郎

資料 1

「3年生より後輩へのアドバイス」の主なもの（抜粋）

<文プラン>

*進路実現に向けてのアドバイス（学習法、資格、ボランティア活動等）

- ・定期考査以外も勉強し、1，2年次から学習習慣をつけるべき。（同様含 計 11名）
- ・英検等の資格をとるべき。（10）
- ・部活動も続けるべき。（7）
- ・オープンキャンパスに1，2年から多く行くべき。（3）
- ・勉強法、テキストは先生の助言を参考にする。（2）
- ・夏休みは補習に出て、勉強のきっかけを作る。（2）
- ・3年からでは遅い。1年から勉強癖をつけたものは、勝ち組。（2）
- ・ともに頑張れる友達、ライバルの存在が大きい。（2）
- ・授業、課題、考査をしっかりとやれば後々かなり楽。（2）
- ・授業が大切。
- ・放課を無駄にしない。（単語等を覚える）
- ・やろうと思ったことはすぐにやるべき。
- ・目標が定まらなくても一生懸命勉強することが大切。成績が上がれば、選択肢が増える。
- ・センター試験まではある程度の英単語量で対応できるが、国立2次は対応できない。早めの対策を。
- ・ボランティアもやっていた方が有利。
- ・トワイライト、ウィークエンド学習を利用するといいい。
- ・1つでも自分の得意科目をもつと（入試で）有利。
- ・国公立を目指すなら数学をしっかりとやるべき。
- ・センター試験の勉強をしっかりとやれば、私大の問題も勝手に解けるようになる。早くから私大に絞る必要はない。
- ・看護の専門学校や大学のほとんどが面接試験を行っているので、医療関係の本を読むととても役立つ。3年生は夏休みがチャンス。（看護専門学校進学者）
- ・就職だからといって勉強を怠ると大変なことになる。資格もとるべき（就職者）
- ・得意科目を作り、苦手科目をカバーする。
- ・とにかく最後まであきらめない。（何よりも大切）
- ・南山は問題にくせがあるので、過去問を解きまくる。英国世1セットを25回位やった。その際、時間を計ること。やり直しが大切。・・・（合格者より）
- ・先生にいっぱい頼った。（春からプリントをもらい毎日やった。）
- ・春から英単語を覚え、人より早くスタートできた。（速読英単語、ターゲット）
- ・自分が集中できる施設を早めに見つけ、学校が終わったら毎日通った。
- ・志望校に行きたいと思いつけ、公言しまくった。
- ・受験では全く手応えがなく、落ちたと思ったが、受かった。
- ・努力は人を裏切らない。

資料 2

進路希望を、時系列で考えよう

⑥ なりたい自分像

将来自分は
になって、

↑

⑤ 「なりたい自分像」に近づくために

↑

東高 卒業

↑

④ そこでやりたいこと

↑

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

③ 2年次からのプラン

プラン

↑

② 東高を志望した動機

↑

① 幼いころの自分の夢

1年 組 番 氏名

科目選択に対するアンケート

1 プラン選択をするうえで参考になったことは何ですか。
参考になったことに○を、特に参考になったことに◎をつけてください。複数回答可。

2 影響を受けたアドバイスはだれからのアドバイス
でしたか。参考になったことに○を、特に参考にな
ったことに◎をつけてください。複数回答可。

企業・キャンパス見学

教員(担任・教科担任等)

科目選択ガイダンス

家族

担任面接 6月 予備調査前
 9月上旬 面接週間
 9月中旬～下旬 面接

先輩

友人

オープンキャンパス
職業インタビュー

本校卒業生

時系列で考えよう調査用紙

外部講師

その他 () ←記入

その他 () ←記入

3 プラン選択を終えての自分の選択に対するの納得度をパーセントで表すと何%ですか。理由とともに教えてください。

%	→ 理由	
---	---------	--

4 科目選択にあたりもっとも悩んだこと、迷ったことは何ですか。

1年 組 番 氏名 _____

平成24年度ESDカレンダー

愛知県立豊田東高等学校

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1年生	<p>自分を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路適性検査 	<p>働くことや学ぶことを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業キャンパス見学 	<p>働くことや学ぶことを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業インタビュー ・オープンキャンパス ・インターンシップ 	<p>社会を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会を知る新聞づくり 	<p>地域を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会・プランニング・実地踏査 	<p>生き方を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業・上級学校を理解しよう、自分史づくり、ライフプラン 		<p>異文化を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会 		<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返り 	<p>総合発表会</p>			
<p>・科目選択ガイダンス・面談・保護者会</p>														
2年生	<p>異文化研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドブック作成、ピクチャーブック作成、自己紹介カード作成 			<p>異文化理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前説明会、修学旅行 	<p>国際理解教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書作成 ・報告会 ・マレーシア料理交流 	<p>生き方を考える・課題研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業・上級学校を理解しよう ・文章にまとめる 	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返り 	<p>総合発表会</p>		<p>環境教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会 			<p>働くことや学ぶことを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス・インターンシップ 	<p>環境教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の健康診断、野外見学、講義
3年生	<p>生き方を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス 	<p>課題研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディベート 	<p>テーマ研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の進路から課題を見つけ、課題について研究する 				<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション ・振り返り 	<p>総合発表会</p>						
地域連携	<p>商店街</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム八日市 ・青空コンサート 	<p>商店街</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれ愛フェスタ2012 	<p>商店街</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム八日市 ・青空コンサート 	<p>商店街</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム八日市 	<p>商店街</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム八日市 ・模擬店(調理プラン) 	<p>地域(県外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生F級グルメ甲子園(調理プラン) 	<p>地域(市内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッドフェスタ 	<p>商店街</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム八日市 ・青空コンサート 	<p>交通安全啓発運動用のぼり製作(美術プラン)</p>			<p>商店街アーケード用バナー製作(商業プラン)</p>		